

モデル都市ウラジオストク マスタープランの方向性（案）

1. ウラジオストク市の成長ポテンシャル及び都市づくりにおける課題

太平洋岸の港湾都市ウラジオストク市は、アジアへの玄関口に位置する主要航路の結節点となっており、成長するアジアの経済活力を取り込むことにより、大きな成長が期待できるポテンシャルを有している。

また、慢性的な交通渋滞、インフラ設備や住宅の老朽化などの課題を抱えているとともに、環境に配慮した廃棄物処理や観光振興などが求められている。

2. 目指すべき都市の方向性

対流の活性化による新たなゲート・シティを目指す

ウラジオストク市の特性を活かし、アジアに開かれたゲートウェイ機能強化や「日本に一番近いヨーロッパ」としての観光開発、日本の ICT 技術や都市開発の経験を最大限利活用して快適で住みやすいスマートシティの実現を目指す。

①魚市場

日本企業が検討可能なプロジェクト。市内中心地のゴールデンプリッジに隣接する埋立地に大規模な魚市場をコンセッションで建設。日本企業との話合いも進めており、現在最終段階に入っている。有益・有利な本プロジェクトへの参加を呼びかけたい。

②立体駐車場

具体の地点を明確化し、コンセッションで4つの立体駐車場を建設するもの。日露プロジェクトとなることが十分可能。

③ユーティリティネットワークの近代化

現在、ウラジオではこれを全力で進めている。日本の経験とテクノロジーを導入したい。下水整備も進めており、一部クローズしたうえで、リハビリを実施している。これから延長2 kmの下水管路の改修を実施するが、紹介のあった非開削管路更生技術は十分適用可能。

④スマート信号の設置

道路交通計画を今後策定。当初から日本企業に入ってもらえると効率が高くなり、また設備機器の設置についても同時並行的に話合うことが可能。

⑤公園・緑地整備

候補地のひとつは、最も古い公園で森林・湖も含まれる。ここに噴水・植物園・スポーツ施設を設ける。また、日本庭園を設けることも検討可能。市が保有している敷地で、総合整備計画として投資家を待っている。また、アムール湾トカリヨフ岬を健康のウォーターフロントとすることも検討中。陸上トラック、自転車道、多目的スポーツ施設、ストリートバスケ、アムール湾へ下りるための斜面整備、水泳施設等の設置を検討している。

⑥低層・戸建住宅

今後の大量建設につなげるため、ロシアの条件に適應させる形での木造住宅ということで作業が進んでいると理解。モデルハウスは8月にも完成と聞いている。新しい住宅団地のインフラ整備も考えている。

⑦廃棄物処理

現在、特殊工場 NO.1 で処理を行っているが、ここの設備がよい状態にあることは日本の専門家も何度も視察し、確認している。1日あたり230 tの固形ごみの処理が可能だが、近代的な排ガスフィルター設置を検討している。